

徳島県中学校基礎学力テスト(2年国語)5カ年 徹底分析レポート

【対象期間: 令和2年度～令和6年度】

徳島県の2年生国語・基礎学力テストは、55分という制限時間の中で「正確な知識」と「深い論理性」を両立させる試験です。5年間の推移を分析した結果、大問構成の固定化と、高得点(85点以上)を阻む「抜き出し・記述の壁」の正体が明らかになりました。

1. 5年間の全体構成と配点ルール

徳島県の国語は、以下の5大問構成で完全に固定されています。

大問	内容	配点目安	特徴
大問1	知識事項(漢字・文法・敬語・書写)	15点	短時間で全問正解が必須。敬語・文法が差動要因。
大問2	文学的な文章(小説・物語)	25点	心情の変化を情景や行動から読み取る。
大問3	古典(古文・漢文)	15点	歴史的仮名遣い、主語の特定、動作の主体。
大問4	論理的な文章(説明文・論説文)	30点	比較・分類の表埋め。配点が最大。
大問5	話す・聞く・書く(作文含む)	15点	資料読解と100～150字の条件作文。

2. 累積データから導き出される「徳島国語・3つの真実」

① 論理的文章の「表・ノート整理」は絶対に出る

過去5年間(R2-R6)、大問4では必ず**「本文の内容をノートや表に整理する形式」**の設問が含まれています。

- R2: サルとヒトの笑いの比較表
- R3: 銀河系と銀河団の規模比較表

- R4: ベイツ型とミューラー型擬態の比較表
- R5: 母語と外国語を学ぶメリットのノート
- R6: 高緯度と低緯度の幼虫の成長比較表

【対策】文章を読みながら、常に「AとBの違いは何か？」をメモする習慣が不可欠です。

② 文法・敬語の「動詞の変換」が合否を分ける

大問1では、漢字の読み書き以外に、動詞の活用や敬語への言い換えが頻出です。

- R2: 「来る」→「いらっしゃる(尊敬)」
- R4: 「見る」→「ご覧になる(尊敬)」
- R5: 「降れば」の活用形と種類の判定
これらを「なんとなく」で解いている生徒は、記述に必要な厳密さを欠き、上位校(城東・市立等)の判定で苦戦します。

③ 作文は「条件の奴隷」になれ

大問5の作文(100～150字)は、内容の素晴らしさよりも「条件の遵守」が採点基準の最優先事項です。

- 「二段落構成にする」
- 「資料中のキーワード(例: 食育、郷土、ICT)を使用する」
- 「100字以上150字以内」
これらの条件を一つでも破ると、内容が良くても大幅減点されます。

3. 令和2年度(R2)の特定分析

令和2年度は、新指導要領への移行期を象徴する「論理的思考」の強化が見られた年度でした。

- 知識: 「漢字の総画数が同じものを選び」という、漢字の構造を深く理解させる問題。
- 論理: 「笑い」という身近なテーマを通じ、夜行性サルの「単独行動」と人間の「社会性」を対比させる、高度な因果関係の把握が求められました。

4. 分析官(予備校講師)による「最終攻略ロードマップ」

1. 漢字・文法を10分で仕留める: ここで時間を浪費すると、配点の高い大問4・5で記述が間に合いません。
2. 抜き出し問題は「語尾」と「文字数」に全集中: 「～から始まる一文」「五字で抜き出す」などの条件を指差し確認すること。
3. 古文は「主語」を補いながら読む: 登場人物が複数いる場合、誰の動作かを余白に書き込むだけで、失点は激減します。
4. 作文のテンプレートを固定する: - 第1段落: 資料から読み取った事実(30～40字)
 - 第2段落: 自分の意見とその根拠・体験(70～90字)
この型を維持すれば、本番で迷うことはありません。

総括:

5カ年の国語分析を完遂したことで、徳島県基礎学力テストの「癖」が完全に見えました。国語は「セ

ンス」ではなく「構造の把握」です。この5年分の表埋め問題を繰り返し解くことで、徳島県が求める「論理の目」を養ってください。